

第2回文京区アカデミー推進計画策定協議会

日時：平成22年1月26日

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター24階
区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第2回文京区アカデミー推進計画策定協議会 会議録

(敬称略)

「委員」

会 長	山崎 一穎
副会長	水越 伸
委 員	青木 和浩
委 員	野口 洋平
委 員	伊藤 明子
委 員	上田 武司
委 員	新保 邦彦
委 員	長尾 栄一
委 員	和田 懋
委 員	清水 智博
委 員	本松 邦廣
委 員	佐藤 成臣
委 員	榊田 慶輝
委 員	田辺 武之
委 員	白鳥 宗一
委 員	檜崎 華祥
委 員	白井 圭子
委 員	奥田 匠
委 員	佃 吉一
委 員	森岡 隆
委 員	市川 正明
委 員	大石 坦
委 員	大野 祐子
委 員	笠井 美香
委 員	熊田 美穂子
委 員	黒木 美芳
委 員	國分 眞史
委 員	柳澤 愈
委 員	山本 重子
委 員	渡辺 みゆき
委 員	高橋 豊
委 員	徳田 隆

「幹事」

企画政策部企画課長	小野澤 勝美
アカデミー推進部アカデミー推進課長	毛利 俊光
アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部スポーツ振興課長	太田 治

○毛利課長：それでは、定刻になりましたので開会をお願いいたします。

○山崎会長：本日はお忙しいところを平成 21 年度第 2 回文京区アカデミー推進計画策定協議会にご出席いただきましてありがとうございます。それでは事務局の方から出欠の状況を報告いただきたいと思います。

○毛利課長：それでは本日の出席状況であります。武智委員と村松委員、中川委員の 3 名の方は欠席のご連絡をいただいております。その他、まだ若干遅れて来られるという連絡が入っております。幹事は全員出席でございます。

続きまして本日の資料の確認をさせていただきますのでご覧ください。委員の皆様には事前に郵送でお配りしております。お手元にお持ちでない委員がいらっしゃいましたら、事務局の方にお声掛けいただければ用意いたします。よろしいでしょうか。それから本日、席上配布資料ということで 4 点資料を置かせていただいております。まず座席表、分科会名簿、学習・趣味・スポーツなどに関する実態調査、文京区アカデミー推進計画策定協議会のご意見シート、以上 4 点が資料です。そのほかとしまして、この 2 月 20 日開催予定の文京区の国際交流フェスタのチラシもご参考に置いています。よろしく願いいたします。以上でございます。

○山崎会長：どうもありがとうございます。議事を具体的に進めてまいります。第 1 回目の協議会で分科会の所属について、心身障害者福祉団体推薦の長尾委員から分科会の所属についてご意見をいただきまして、会長預かりということになっておりました。長尾委員の発言が有効に機能するように、いろいろ考えまして文化芸術分科会、当初はスポーツ振興分科会の方に入っていたわけですが、文化芸術に関する分野でのご意見をいただくのが一番適任ではないかと考えました。なお、当初文化芸術分科会に所属していました高齢者クラブ推薦の和田委員にスポーツ振興分科会への交代をお願いしました。お 2 人とも快くお引き受けいただきましたものですから、あらためて所属を替えまして、本日配られた席上の資料の 2 枚目の委員の名簿に訂正してございます。よろしく願いしたいと思っております。どうも和田委員もありがとうございました。

それが 1 つと、第 2 点は今、資料の中にありますように、第 1 回協議会の中で実態調査のイメージについての説明し、ご意見シートで頂きましたご意見を踏まえて実態調査票を作成しました。抽出しました区民の方に 1 月 21 日、事務局の方から郵送してございます。2 月 5 日に回答期限を設けておりました。その結果につきましては第 4 回目になります 3 月の協議会で報告の予定でございますので、まずそのことだけ申し上げておきたいと思っております。

それでは、本日の会議はお手元の次第によって進めてまいります。まず、第 1 回目でもご意見いただきましたが、これまでのアカデミーの構想等の取り組みについての概要がどうしても頭の中に入っていないと進めにくいと思っております。これについて、事務局の方からまとめて説明をお願いしたいと思います。そして、その次にアカデミーの推進計画の基本理念とか目的等について意見交換をしていくと。これは各分科会が分かれておりますから、後ほど申し上げますけども、必ずしも分科会の順番に委員の皆様が構成されているわけではありませんものですから、ご意見いただくときには耳で聞くということで整理しやすいように、分科会別に意見を聞いた上で全体の討議にかけたいと思っております。よろしく願いいたします。

なお、議事録を作成する関係で、発言する場合に席上のマイクのスイッチを押していただくと赤く輪がつきますのでご発言ください。所属と自分のお名前を言って発言をいただくと議事録作成に大変ありがたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

では、まず事務局の方から具体的に今までの取り組みについてのご報告をいただきたいと思います。よろしく。

○毛利課長：それでは私の方からこれまでのアカデミー構想の取り組みについて、お手元の資料の 15 から 18 号に基づきまして説明したいと思います。

まずお手元の資料、通しページで 23 ページ、資料第 15 号をお開きください。これは、これまでのア

カデミー構想等との取り組みについてということで、文京区におけます生涯学習の推進やアカデミー構想の推進状況を理解していただくために概略をかいつまんでご説明したいと思います。

まずは15号で「文京区生涯学習推進基本構想の概要」ということをご覧ください。この説明に入る前に概念図でご説明したいと思いますので、このページの53ページ、ちょっと後ろになりますけれども、53ページの横書きになっております「文京区アカデミー推進計画の概念図」というのをお開きください。53ページです。よろしいでしょうか。こちらの概念図、右と左に大きく分かれます。左側が現行の図式になっています。右側はこれから作る新しい計画の概念図になっております。左側をご覧ください。一番上に文京区の基本構想がございます。その下にぶら下がるかたちで、まず生涯学習推進基本構想ということでこちらは生涯学習の基本理念を定めているもの、その下に2つ平行的にぶら下がっているのが、文京区生涯学習推進計画と文京区アカデミー構想です。本日はこの生涯学習の基本構想と生涯学習の推進計画ならびにアカデミー構想、この3つについて概要について説明したいと思います。

それではまた前のページに戻ります。先ほどの23ページ、資料第15号にお戻りください。こちらの生涯学習の基本構想の概要ということでお話しすると、まず始めに、生涯学習の基本理念ということで4つの理念を述べております。(1)の生きる目的を学び、学ぶ術(すべ)を学ぶという、こういった4つの文京区の目指す生涯学習の基本理念がございます。それを受けまして、2としまして生涯学習推進のための方向性ということで4つの方向性を示しております。その1つ目が(1)の生涯学習の基礎づくりのためにということで、こちらは家庭・学校・地域が生涯学習の基礎づくりの場として果たす役割が重要であるということで、それぞれの向上を目指すといった方向性を示しております。(2)としまして多様で豊かな学習機会を提供するためにという方向性では、多様な区民ニーズにこたえ、個性を尊重した学習機会を提供することなどを目指すといった方向性を示しております。3つ目が出会い、ふれあいで生き生きとした生活空間を創造するためにという方向性で、ボランティア活動や自主学習グループ、自然とのふれあい、国際交流などの促進を目指すものであります。4つ目としまして豊富な学習資源を活かすためにということで、区内の学校、地域の伝統文化などの学習資源の活用を目指す方向性を示しております。この4つの方向性を受けまして、3としまして生涯学習を推進するためにということで、「文京区全域を生涯学習のキャンパスに」と。たびたびこれが出てくると思うのですが、こちらは学習活動を行う機会や場は区内のあらゆる場所に存在するというので、学習の場は行政の学習施設だけでなく地域や家庭をはじめ区内の全域がキャンパスであるという考えに基づきましてこういった発想が出ております。区内全域を「いつでも、どこでも、だれでも」が学習できる場とするというのがこちらの意図でございます。

それから(2)にいきまして推進体制ということで、こちらは①としまして行政と区民・区内団体、教育機関による協議機関ということで生涯学習推進協議会を設置したということになります。現在は、当協議会がこの内容を担っております。2としまして事業を行う組織としまして生涯学習センターの設置ということで、これも現在では財団法人文京アカデミーの中にその機能があります。3としましては、庁内というのは区役所ですね。全庁的な組織ということで生涯学習推進本部を設置。これも、現在ではアカデミー推進本部という名称になっております。これが推進体制になっております。

続きまして次ページをお開きください。24ページ、資料第16号。こちらは構想を受けましてその下にぶら下がるものとして、生涯学習推進計画ということで平成17年2月にこれは改定されたものです。最初にできた計画が平成6年3月に策定されまして、それが第1次改定で平成12年3月、第2次改定で17年2月と2次の改定を行ったものでございます。そちらの考え方としまして、(1)にあるように生涯学習の基本的な考え方ということで、地域社会を活性化する核となるものを生涯学習の活動でもあるととらえこれを支援するという基本的な考え方でございます。こちらの改定ができるときの背景としまして、社会環境の変化ということでご覧のとおり学校完全週休5日制の実施とかキャリアアップを目指す社会人の受け入れ体制の整備、また子育て支援や急速なIT化、NPOの大学等教育機関を取り巻く環境の変化といったこととか社会教育法の改正。それから(3)としまして文京区の基本構想と推進計画の関係ということで、こちらは生涯学習の推進計画は先ほどの概念図でもお示しましたように、文京区基本構想を実現するための補助計画であるという関係になっております。それから第2次改定の目的ということでこちらに書いてありますように、生涯学習基本構想の理念を基本としながら現行の推進計画の見直しを行ったというかたちになっております。それから推進計画の性格・位置づけという

ころでは、生涯学習の理念や行政が果たすべき役割を具体化するもの、それから生涯学習活動を側面から支援するためのもの、それから生涯学習推進のための目標を示しているものと、そういったものの方向性を示したものであるという位置づけになっております。それから推進計画の期間ですけれども、これは平成17年度から平成19年度までの3年間が計画期間となっております。この3カ年で計画期間は終了しているわけですが、基本的な考え方はこのまま後ほど説明しますアカデミー構想にも踏襲されているということになっております。それから推進計画の視点ということで、先ほどの文京区生涯学習基本構想でも出ております「文京区全域を生涯学習のキャンパスに」という考え方を踏まえた上で新たな視点を加えております。例えば教育・文化資源を活用した生涯学習によるまちづくり等々の新たな視点が盛り込まれております。そして2の方で生涯学習推進施策の目標と方向ということで、この計画で定めている基本目標を4項目設定しております。(1)から(4)になります。この内容が続きまして次ページ、25ページをお開きください。こちらは体系図になっております。今の基本目標4項目を含めまして次の25ページに体系図というかたちで施策の体系。

こちらは生涯学習基本構想を受けた生涯学習推進計画の目標と方向性を体系化したものです。真ん中あたりに計画の基本目標ということで、この計画の4つの基本目標を示しております。例えば1としまして「文の京」らしい生涯学習の展開など、4つの大項目を掲げ、以下右側にいきまして中項目、小項目というかたちで体系化しております。ご覧いただければと思います。

続きまして次のページ、26ページをお開きください。こちらは先ほどの改定されました生涯学習推進計画の推進事業の状況を一覧表にまとめたものであります。見方としまして、左側の管理番号というのが先ほどの体系図の大項目、中項目、小項目の番号を指しております。それから生涯学習推進計画の2次改定の記載内容がありまして、右側の方に平成21年度、現在の実施している事業の状況を表示してあります。例えば一番上で言いますと、第2次計画の決定版の中の記載内容では事業名で「区内大学連携講座」という名称でしたが、現在の事業名でいきますと「大学プロデュース講座」というかたちで事業名は若干変わっております。右側が最新の21年度の事業情報です。そういったかたちでこれが29ページから50ページまでの一覧表になっておりますので、こちらは今後、分野別の分科会等で話し合うための参考の資料にいただければと思います。ちょっと量は多いのですが、後ほどまた分科会等で使うときに参考にいただければと思っております。

続きましてページが飛びまして51ページをお開きください。51ページ、資料17号。「文京アカデミー構想の概要」ということで、こちらが最後の説明になります。文京アカデミー構想はご案内のとおり平成17年11月に作成されたものです。こちらに最初に構想の意義ということで、生涯学習・文化・スポーツ施策、これ以外にも観光、国際も入ります。そういったさまざまな課題について効率的で柔軟な対応を行うための体制を構築することで、「区内まるごとキャンパス」化を実現するといった意味の構想を立てたわけでございます。それで文京アカデミー構想というのは、最先端の生涯学習を進める上で区内まるごとキャンパス化を展開する政策名であるとしております。そういった中でアカデミー構想の基本的な方向性ということで、こちらに3つの方向性を示しております。1としまして多様な学習講座の拡大、2としまして大学等の教育・文化資源の活用、3としまして学習の成果を活かすといった3つの基本の方向性を示しております。それを受けまして3として目標実現のための方策としまして、3つのネットワークを構築しております。これは構想を実現するための方策としてのネットワークです。①としまして学びのネットワーク、②としまして教育・文化資産のネットワーク、③としまして人づくりのネットワーク。こちらの基本的な方向性と3つのネットワークによりまして、これは次ページにアカデミー構想の実施事業例が掲げております。

次の52ページをお開きください。今、お話ししました3つのネットワーク。左側の方に基本的な3つの方向性を受けて、この文京アカデミー構想の実施事業ということで目標実現のための方策としての3つのネットワークを掲げております。先ほどの学びのネットワーク、こちらに事業例等が出ております。こちらは主に大学、企業との連携、多様な講座を拡大していくということで実施した事業としまして、右側に例えば資格取得キャリアアップ講座とかメセナ講座とかe-ネットラーニングの活用講座とか大学プロデュース講座といったものが実施事業として考えられます。2つ目のネットワークとしまして、教育・文化資産のネットワークということで、こちらにも事業の実績は右側の方に出ております、スポーツ指導者講習会やBヴィレッジ、文京中学サッカーヴィレッジの開催とか、文の京ミュージアム・

ネットワークの設立と情報誌スクエアの発行等々です。最後の3つ目のネットワークが人づくりのネットワークということで、こちらは区独自の資格制度を創設するということが皆様ご案内のとおり、右側にあります生涯学習司の講座とか区民大学サポーター養成講座、地域文化インタープリター講座等々の資格制度の創設等が挙がっています。

それからまた 51 ページ、前のページにお戻りください。アカデミー構想の下の部分の推進体制ということですが、(2)の推進体制の考え方ということで、こちらでは基本的な考え方としまして、より迅速で柔軟な効率の高い事業を実施するために文京区地域文化振興公社を活用するということが、今、現在はこの名称が変更になりまして、ご案内のとおり財団文京アカデミーがそれを担っております。2としまして生涯学習・文化施策の再構築というところでは、所管組織を抜本的に見直して教育委員会から区長等へ一元化したといったところになります。④としましては区民との協働ということで、区民や各種団体等で構成する協議の場を設けたと。後ほどまたいろいろ出てきますけど、3つの会議体を設けてそれぞれでそれぞれの会議体で区民との協働を図るということになっております。

続きまして次ページ、53 ページをお開きください。資料 18 号。左側は現行の先ほど説明したアカデミー構想関係です。右側が今度新たに作るアカデミー推進計画の概念図になります。一番トップに新たにできる文京区の基本構想。これが平成 27 年 4 月スタートする文京区の基本構想。その下に文京区アカデミー推進計画というかたちで左側の従前ありました生涯学習の基本構想ならびに生涯学習の推進計画、文京アカデミー構想、この3つが合体したかたちで文京区アカデミー推進計画というのが今回皆様で協議していただく内容になっております。これは 23 年 4 月スタートのものになっています。その中身や概略を見ますと、総論部分と各論部分に大きく分かれております。総論部分は構想的なものです。これからいろいろ議論していただく内容になりますけども、基本理念とか基本目標とか基本方針。これは長期的な視点に立って、例えば 5 年とか 10 年を見据えたものの構想というかたちになるかと思いません。各論部分にいきまして具体的に事業計画ということで現状の課題とか 5 つの分野別の計画、こちらは 3 カ年の計画になります。3 カ年ということですので 3 年ごとに見直しというかたちになるかと思いません。以上がこれまでのアカデミー構想の取り組みの概要を示したものであります。以上です。

○山崎会長：どうもありがとうございました。かなり大部なものになりますが、この今のご説明に関して委員の皆様方から、まず資料について、あるいは不明な部分についてのご質問がありましたら、まずご質問を承りたいと思っております。はい。

○長尾委員：長尾栄一です。ただいま報告がありました中で平成 27 年までというお話がございましたけれども、文京区基本構想では平成 30 年までとなっているのではないのでしょうか。そうするとそこにギャップが出るような気がしますがいかがでしょうか。

○山崎会長：事務局に答えてもらいますので。

○毛利課長：すみません。私がちょっと間違えて説明したかと思うのです。基本構想は平成 23 年 4 月からということで、27 年というのはもしかすると間違いの発言かと思えます。訂正させていただきます。平成 23 年 4 月から文京区の構想はスタートすると。申し訳ないです。23 年です。

○長尾委員：23 年から 30 年までじゃありませんか。30 年までのことを基本構想で審議していませんか。

○小野澤課長：現在、検討を進めています状況では今年、平成 22 年の 6 月に向けての策定ですので、平成 22 年 6 月が正しいものでございます。

○長尾委員：22 年の 6 月まで決めるのですけれども、目標としての平成 30 年まで考えているのではないのでしょうか。

○小野澤課長：基本構想の場合は正確な年次まではお示ししていないのですが、おおむね 10 年間の文

京区という意味では、平成 32 年というのは 1 つの区切りになろうかと思っております。

○長尾委員：そうするとなおさら今の 27 年というのだとずれませんか。

○山崎会長：今、27 年というのは間違いで、22 年の 6 月からスタートするということです。

○長尾委員：スタートはいいのですが、到達地点、到達のめどは？

○山崎会長：ほぼ 10 年のスパンで考えるということです。

○長尾委員：32 年ですね。

○山崎会長：はい。

○長尾委員：わかりました。

○山崎会長：ほかにご質問はありませんか。それではご意見のある方というのはいますか。

○奥田委員：質問があります。

○山崎会長：ご質問ですね。はい。

○奥田委員：観光分科会の奥田でございますが、昨年の夏に文京区観光ビジョンというのができていると思うのですが、それは 53 ページの絵柄の中でいくとどういうふうに組み込まれるのか教えていただければと。

○山崎会長：今のご質問は観光ビジョンとの関係ですね。

○小野課長：この新しい概念図の中ではちょっとここの三角から外に出るといふかたちになろうかと思えます。観光ビジョンで検討した結果を踏まえてこの推進計画、3 カ年の実施計画の中に具体的政策を入れていくという感じになります。

○山崎会長：もうちょっと具体的に説明してもらわないとわからないですね。

○小野課長：基本構想とアカデミー推進計画ってこの上下のかたちになっているのですが、そこからちょっと離れたところに観光に関するビジョンがあって、そのビジョンを踏まえながらアカデミー推進計画の中の総論、もしくは各論のところを委員にご検討いただきたいのです。あくまでもビジョンはビジョンとして別物だとちょっと考えていただきたいと思っております。

○山崎会長：観光ビジョンを策定したものの中から、言ってみればこの理念なり何なり抽出してくるといふ、こういう考え方ですか。

○小野課長：そうです。ビジョンはビジョンで決めたものですので、これを活かしながら新しい推進計画の中で活かしていきたいのですが、もともとの基本構想が観光ビジョンとはまったく違うふうになった場合には、ビジョンそのものも変えなくちゃいけないということもありますので、そこら辺はちょっと微妙な関係なのですが、今回の推進計画策定の中ではこのビジョンはビジョンとして考え方を活かしていった具体的な施策を考えていただきたいと思っております。

○山崎会長：さて、そういうことだと座長の先生、どうですか。野口先生。

○野口委員：観光の分科会の座長をさせていただき予定の野口でございます。前回は似たようなことは申し上げたのですが、やはり観光といいますと経済的な側面を含みますので、議論できる枠組みというのが自由に設定していいと会長からお言葉はあったのですが、実際にはその全体の計画とこちらでの計画とさらにビジョンというのがあって、どれをどのようにすみ分けるかとか。あとどちらの目標というか、どちらのビジョンというか全体のイメージというかを優先させて考えるかということによってだいぶ違ってきますし。

例えば前回申し上げましたけれど中心市街地の活性化の問題だとか、そういったことは生涯学習の話と相当距離があるので、あるのですが観光にとっては非常に重要になってくると。どの場面でどういうことを議論するかとかいうことの切り分けをするのか、それともしないのか。何かそこら辺がちょっと、今日実はここで最終的にご質問しようと思っていたのは、その最終的な成果物と言うと変ですけども、どういったかたちでまたこの全体会にお戻しするのかということが最終的に今日イメージとしてつかめたらありがたいなと思っているのです。すみません、ちょっと取りとめのない話で。

○山崎会長：かなり重要なことだと思うのです。座長の立場から言いますと、片一方にビジョンができていて、それを踏まえてとおっしゃるけれども、かなり現実的な問題としてずれが生じてきたりするのだろうと思うのです。私は、それはそれでいいのだと思っている方だけでも、おそらく行政は困ると思うのです。そういう人を会長に選んだのだからしょうがないと思って私なんかいるのですけれども、しかし現実として座長の先生方が今のように切り分けられる、あるいは分科会でやったものが全体会の中にどう戻されるのかと。この辺の筋道は、まだ始まったばかりだからやってみなきゃわからんということはあるかもしれませんが、少しやっぱ何か示唆みたいなものを与えていただくとおそらく座長の先生方はやりいいのだろうと思うのです。どうですか。はい。

○毛利課長：ちょっとお答えになっているかどうかかわからないのですが、全体のアカデミー推進計画の構想、構成みたいなものですね。先ほど総論というのがありまして、その中に各論部分が出ているわけです。各論部分の中に例えば観光ですと観光計画というかたちで出していただきます。その中に観光の現状と課題、分野の現状と課題を話し、それを受けまして分野別の計画というかたちで基本的な方向性・考え方、ここまで言えるかどうかかわからないのですが事業の数値目標とか。これはあくまで数値にすることは可能なものという、そういったこととか事業の体系とか。そういった各論部分はそれぞれの分野に共通して表記していただきたいと思っております。ただ、その中身のボリュームは分野別によって若干変わってくるかと思っておりますけど基本的な性格等のかたちはちょっと統一したいと思っております。

○徳田委員：よろしいですか。アカデミー推進部長の徳田です。基本構想とかビジョンとか推進計画とか、いろいろ言葉は飛び交っているのですが、文京区の場合、従前ですと、ビジョンというのはあまり作ってはいませんでした。まず区全体の、例えば10年なり長期にわたる将来の構想を決める基本構想、これをもとに基本計画あるいは実施計画みたいなものを組んできました。ところが、その基本構想そのものを見直すということが昨年決まりまして、今、取り組みをやっているのですが、今の時点でビジョンと呼べるものは、1つは教育の方で持っている小中学校将来ビジョン。それから保育の分野で持っている保育ビジョン。それから観光分野の観光ビジョンという、実はそれしかないのです。今の基本構想というのは平成13年に作ったのですが、その後の時代変化がいろいろありました。そうしたものを取り込むかたちで、基本構想でないのですが、ただ事業計画でもない、将来あるべき姿といいますか、10年スパンぐらい先の姿を予想して、こうあるべきではないかという考え方を作ったのです。ですから教育で言えば小中学校将来ビジョンというのは、教育は教育で別にもっと高い教育目標はあるのですが、主に施設面に視点を当てて、例えば小学校・中学校はどうあるべきか、あるいはその他、特別支援教育はどうあるべきかというその時々々のテーマで将来方向はこうではないかというのを作ったのがビジョンです。そのビジョンを受けて個々の計画というか実際の事業計画を、毎年組んで作っているわけです。

観光の分野も国の方でご案内のように大きな変化がございまして、今の時点ではいろいろな政策で経済状況もあるので国の方は予定通りってはいないみたいですが、少なくともそれを受けてそれまでの、区の商店街がわかりやすく言えばその利益を受けるとか、あるいは文京区のもの売れるとかいうだけにとどまらないで、むしろその観光というのを起爆剤に今、住んでいる人たちも、あるいはお見えになる方たちも、ともに文京区というまちづくりに関係してくるのではないかとという発想が出てきました。いわゆる観光政策による観光まちづくり政策です。それをビジョンとして基本構想に先行してまとめたのが去年の観光ビジョンです。ですから、そういう意味ではその時点ではまだ基本構想はそこまで踏み込んでいなかったのですが、逆にその観光ビジョンに基づいて今の基本構想が、それもやっぱり考え方を整えてきているという例があります。そういう意味では、ですから先ほど観光・国際担当課長が、この四角の中には収まらないという言い方をしているのですけれども、実はこの四角とその基本構想の間にもう1つ目標みたいなものがあって、それがビジョンだと考えております。

ですから、ここでは実際にはおそらくそのためもう少しそのビジョンとしてかなり抽象的な表現もたくさんありますけれども、もう少しそれを具体化した目標ですとか、あるいは実際にどういう事業展開を組んでいくのかについては、これからいろいろ分科会で議論されて最終的にまとめられてくると思います。そうなった場合にこの53ページの右側の四角ですね。このいわゆる総論部分についてはたぶんビジョンを反映するものではあるかもしれないし、あるいはその下の計画としては具体的な計画が事業として今後どういうふうやっていくのかについて、まとまってくるのではないかと考えております。だから、そういう意味では大きな目標とそれからその次の時代に即した考え方みたいなのがビジョンだにご理解いただければいいかなと思います。よろしいでしょうか。

○山崎会長：ほかにご質問、ございましょうか。はい、どうぞ。

○本松委員：すみません、中学PTA連合会の本松です。ちょっと教えていただきたいのですが、この第2次改定版なのですが、これって現在実施している事業というのは、これは21年度っておっしゃいましたっけ？ 21年度の事業だということで、23年4月に推進計画を立てて、すみません、言葉がちょっとわからなくなっちゃっているのですが、この生涯学習推進計画とこのアカデミー推進計画は違うものですよね。というのと、この廃止とかいろいろ書いてあるのは、これは誰が言った廃止、区の方でされたのか、それはもう区の考え方で廃止されたのかということと。あと最後の49とか50は全然、学習推進計画はなくて現在、実施しているということでこの関連性は、このアカデミー構想からきた事業なのか、何かその辺が資料でよく見えないので、そこは基本資料でお教えてください。

○毛利課長：よろしいですか。基本的にこの26ページですね。生涯学習推進計画第2次改定の推進事業というのは、これにはアカデミー構想は載っておりません。これは平成17年にできたときの推進計画の事業を全庁的に一覧表で出したものです。左側の2次改定当時の記載内容で右側、現在というのが平成21年度の事業を載せております。ですからその間には乖離（かいり）があるわけです。この推進計画は平成17年にできて19年度まで一応終了しているわけなのです。その後、19年度以降、生涯学習推進計画というのはできていないのです。できていないのですけれども事業は連綿と続いているわけです。

それで今回、21年度の新たな調査をしたのです。推進計画は19年度に終わっていますけれども事業は連綿と続いていますから、それをフォローという意味で21年度の実施計画は右側に作りました。その中で一つ一つ事業を見ている中で中には区の判断で廃止になるものも入っております。それから最後のページの方は当初の2次改定の推進計画の中では盛り込んでいなかったものが最近になって例えば20年とか21年で新たな事業として加えられたもの等々が入っているわけです。ですから推進計画というのは17年に策定して19年度まで計画上是終わっているのですが実際の事業は続いているということと、あとこれとは別にアカデミー構想ですね。それが政策名というかたちで構想として出ておりますからアカデミー構想のかたちでここには出てきていません。

○本松委員：すみません。アカデミーの中でこの52ページはメセナ講座とかいろいろ、このアカデミー構想で実施したというふう書いてあるので、50ページだけ、メセナ講座とかいうの。これは一緒

の、どこら辺か、すみません、わからなくなっちゃって、この関連性が、それは左側で終わっているならこの右側はいったいどこからきたのだろうというのは見えなかったということで、すみません。

○毛利課長：すみません、申し訳ない。そうですね。当時の生涯学習推進計画の中で、事業がそのままアカデミー構想の中でも生きているのもありますし、新たにアカデミー構想の中で生まれた事業もあります。その辺は両方混在しています現状です。

○本松委員：わかりました。ありがとうございます。

○山崎会長：今までの説明で、これまでの具体的な計画については、今まではこうやってきたと。今度はどうするのだということになっているわけです。ここで、各委員1人だいたい2分ぐらいの見当で今までの自分の経験を踏まえて、あるいはそうでなくてもいいですが、自分はこう考えるということでもいいと思いますが、ご意見を少し頂きたいと思います。分科会が5分野ありますので、先ほど言いましたとおりに、並んでいる席の順番は必ずしも分科会の順で並んでいません。最初に生涯学習の分科会から、名簿によりまして、各分野10分ぐらいの見当をつけて少しご意見を伺っていきます。そうしますと、今までの計画でどこがどう乖離しているのか、いろいろな意見が出てきたところでお互いの相手が何を考えてアカデミーをイメージしているのかということも見えてくるかと思えます。

まずは、生涯学習分野のところ、榊田委員からお願いしたいと思います。

○榊田委員：榊田でございます。私、生涯学習の推進委員になったのは2年前ぐらいからでして、その前にちょうど現役から卒業したのが67歳ということで、いったい住民というのですか、地元はどう定着しようかなというところから本来はまだ自分の家の仕事もあるのですが、まず区民のために自分ができるかなというところ。今まで本当に仕事ばかりで追っかけていまして地元を全然見ていなかったというところ。まず文京区の基盤でこれから残されたところを若い人たちに、あるいは現役をこれから卒業して高齢者になって地元に戻ってくる人たちにどのようにしてやろうかなというところから今回の生涯学習の方に参加しました。

そこでまず何を考えたかということ、生涯学習という団体の中で活躍の場があるからというきっかけが、ちょうど文京アカデミーのサポーター。講座を演習しております中のサポーターというのですか、本当のボランティアを手助けするということから参加し始めました。その後、今度は生涯学習室ということで講座を作る側の役割を認識することです。その後、委員ということで今度は講座を作っていくということやればいいんですけども、実際問題は目標、理念を掲げても現実にみんなのボランティアをやりたいというときにどう皆様が具体的に楽しんで参加できるかなというところで、これはサポーターの事務局を立ち上げて何とか楽しく共同にレベルを上げながらやっていくという、それが1つの生涯学習の中の一步になるのかなということで参加させてもらっています。やっと昨年の4月に任意団体ですけども出来上がって、今まで財団法人文京アカデミーで講座のサポーターを割り当てたのをサポーターの会でみんなの意見を聞いてその中で分担をしたというわけです。

ですから、まず生涯学習の中でそういう参加されているのは高齢者が多いですけども若い人たち、お母さんたちにもやらないといけない。それから文京区の中で大学の連携がいろいろございます。そういうところで活用させていただきたいということですけども、そういうのを一步一步具体的に実現してみんなの実感として味わったときに生涯学習のレベルが上がるのではないかとということで、今回も目標に対して具体的にどう展開するかというステージを提案できればということで参加しております。よろしくお願いを。

○山崎会長：佐藤委員。

○佐藤委員：アカデミー文京学習推進委員の佐藤でございます。一応、推進策定のところぐらいからいろいろな意味でお付き合いをしているのですけれども、まずそこを見た上での所感として申し上げるのは、とにかく出入りの激しい団体だなということが感じられます。財団を作ったかと思ったら事業を取

り上げて財団を廃止する、計画を立てたかと思ったらビジョンを作ると。今回もそういう意味で言うと生涯学習基本構想と学習推進計画、アカデミー構想という3つを一本化してアカデミー推進計画を作るということになるのですが、またこれも実施部隊が指定管理で出されてしまうとかスポーツのように指定管理そのものに出されてしまうような可能性があるのと、作ったはいいいけど本当に実施してくれるのだろうかというところが非常に不安であります。

それから見ている範囲でいくとこの推進事業の部分を考えてみると、私はどう思うのですけどこれは基本構想の部分の焼き直しじゃないかなと感じます。なぜかという、例えば社会福祉協議会の事業のようなものが入っているのですが生涯学習をやっている人で社会福祉協議会の動きを理解している人はおそらく5%もないと思うのです。それが計上されているところを見ていると、どうしても我田引水にしか見えないのです。確かに福祉の分野であるとか教育の分野というのはすべての事業の根幹を成すものかもしれませんが、これは逆に言えば福祉の分野からすれば生涯学習は福祉の一環の部分としてあるということですから、向こうの策定計画からすれば生涯学習のいろいろな分野は福祉計画の一部として入ってしまうということがあると思えば、これって何か本当にこの範疇（はんちゅう）に入れるべき必要なものなのだろうか。逆に言うと福祉という名前の分野を双方の事業体で取り合いをしているような、そんなイメージを持つと思います。ですので、策定するとすればその辺の事業仕分けをしっかりとやっていくか、バッティングするならするで構わないので、そこを競争にするのか共同にするのかというところのビジョンを、座長を含めて委員会の方でお示しただければ、もし競争でしたら勝てる事業を出しますし、共同でしたら仕分けのできるようなかたちでの提案をしていきたいと考えております。以上です。

○山崎会長：はい、ありがとうございます。かなり踏み込んだご提言になっています。一応伺っておきます。清水委員。

○清水委員：小学校PTA連合会から来ました清水と申します。昨年の夏に僕はそれまで生涯学習という言葉はあまり耳にせず、はっきりいって「何のこっちゃ」ということで最初に伺ったときに思ったのですが、その生涯学習というテーマで成澤区長と1回対談をすることがありまして、そこでいろいろとお勉強させていただいたのです。文京区でやられているその生涯学習活動は実際、行っている方々のレベルがすごく高いなと思うことと、そのチャンネルがすごく豊かだなと思ったのです。その学習をなされた方々の活動とか、そういうものを実際われわれがどういうことをやられているのかというのをよくわかっていなかったのです。そういうわれわれに届く情報もなく、せっかくそうやってお勉強された方とかそういうキャリアを積まれた方が地域にいることを、あまりわれわれは知らなかったと、そういうのをすごく感じて、ぜひ今回はそういう方が地域参画できるようなそういうネットワーク作りみたいなものをご提案できたらいいなと思って参加しております。よろしくお願いします。

○山崎会長：はい、ありがとうございます。渡辺委員。

○渡辺委員：渡辺です。私は区内で講座の講師やサークル活動などをやらせていただいています。今回はすごく細かいことはまだ勉強不足でよくわからないのですが、例えばほかの区との連携はどうするのかとか国としての施策はどうなっているのかとか、その辺のもうちょっと大きな目で、上から見た情報をもう少し勉強させていただいて、それで23年から10年間という計画と伺いましたので、この先どういうふうに生涯学習その他を導いていけばいいのかというのをいろいろな角度から見て意見を述べさせていただきます。大ざっぱな考えですがよろしくお願いいたします。以上です。

○山崎会長：はい、ありがとうございます。黒木委員。

○黒木委員：区民公募で来ております黒木でございます。先ほど観光ビジョンとの兼ね合いの話が出ましたが、発言の機会のある今、意見を述べさせていただきます。観光ということになりますと通常、区内の観光施設に区民はもとより区外の人たちを引き寄せるといった考えになります。それは地元の経済効

果を狙うわけですから、それはそれで結構なことなので、経済課や町会、商店会等と一緒にやっていただければいいと思うのです。しかし、人を呼び込み経済効果を目指すと、ターゲットはだんだん区外に向けられることになってしまいます。アカデミー構想で考える観光は、ターゲットを区民に置くことになると思います。そのためには、観光というキーワードで、区民を海外を含んだ区外に送り出すことを考えるのが方向かと思います。観光旅行に出て、歴史遺産や博物館、美術館を訪問したり、オペラを聴いたり、異国の食事をとったり、異文化の人々と交流することでどんなに学習意欲が高まるか、自主学習グループの人たちを見ていると、その必要性和アカデミック効果の大きさを強く感じます。人を寄せ観光案内する方法も残し発展させながら、世界を学習の場にする発想を観光部会で検討していただきたいという思いを持っております。私は観光部会のもものではありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

○山崎会長：はい、わかりました。だいたいこれで生涯学習分野の委員の方のご意見は一応、承りましたので、次はスポーツ振興の分野の方に行きたいと思いますが、白鳥委員のところからお願いします。

○白鳥委員：体育指導員の白鳥と申します。よろしくお願いいたします。私は今までこの前の会議体から引き続き参加させていただいているのですが、やはり体育指導員をやっていて今の基本構想の新しい基本構想に乗っかっているところは切実に感じているところであって、基本的にはこの基本構想に基づいたアカデミー推進計画を作る必要があるとは考えております。あと今までの会議体の流れでいくとやはり同じようなところが同じような事業をいろいろなところでやっているというところをもう少し整理していった一本化したものが出来上がればいいかなとは感じております。以上です。

○山崎会長：どうもありがとうございました。次に田辺委員。

○田辺委員：体育協会から参加しております田辺です。私たち体育協会は 31 団体あるのですが、実際に今、子どもたちの参加が少ないものですから、これから分科会でそういうものを相談していこうかなと思っています。それにしてもグラウンドは少ない、体育館は少ないというようなこともありますし、アカデミーの方でも相当苦労しているのだと思いますけども、そういう点も少しこれから勉強させていただきたいなと思っておりますのでよろしくどうぞお願いいたします。

○山崎会長：わかりました。次、和田委員。

○和田委員：文京区高齢者クラブ連合会の和田と申します。梶田委員が先にお話しされましたように、仕事人間、会社人間にとってリタイア後をどうするかというのが 1 つの大きな課題であり問題なのです。1 つ悩みであるわけです。私はその意味では救われました。それは文京区の区民大学とか 3 年制の高齢者大学とかありまして、それを受けることによって利害関係のない友達がたくさんできて仲間が増えたというのが 1 つ。それからもう 1 つは文京区を、地元で 60 年間生活していながらよく知らない面があったのです。それをそういう講座を通して文京区を知ることができた。例えばお寺、神社・仏閣が 150 以上も文京区にありますよと。名のついた坂は 100 以上ありますよと。それも一つ一つ歩きながら自分たちで地図を作ろうと。町並み探検とか言いながら地図を作ったりしてやってきたわけです。そういうことが 1 つの生きがいというかたちになって、仕事人間にとっては地域社会の中に入っていくというのは難しいのです。ところがそういう友達ができることによって地域社会の中に入っていくことができたのです。ですから私は今、後楽町会の中でいろいろなことをやっていますし、それから高齢者クラブというのを作ってその中でもいろいろやっているわけです。それはやはりそういう大学を通してみんなで学ぶ楽しさとか、あるいは自分の時間がたくさんあるわけですから、それをどう有効活用できるかというところまで踏み込んでできたというのが一番よかったのかなと。

ただ、高齢者大学、あるいは講座、区民大学というのは 3 カ月とか長くても 6 カ月なのです。それ以上のものを継続してやるところはやっていないわけです。そうすると継続するためには自分たちでサークルを作ってサークル活動をやらないといけません。私の方でも 2 つ今、作って登録して登録団体にな

っていますけれども、そういうかたちでやらないとなかなか継続できないという面があるのです。だからこれはスポーツでも同じだと思うのです。礪川マラソンというのは35年間続いたのです。35年間礪川の地区対でやっているわけです。これが礪川の地区対だけじゃなくて本当は文京区全体で参加しているわけですから、今は区外からも参加しているのですね。そうするとそういうスポーツのものについても地区対だけに任せるのではなくて文京区の全体をどうできないかとか、そういうこともちょっと考えていただきたいなど。そういうことです。

○山崎会長：どうもありがとうございました。今度は大野委員。

○大野委員：何を答えていいのかよくわからないのですが、先ほど文京アカデミー構想の概要ということで課長の方からご説明ありまして、構想の意義のところ、まず生涯学習、文化、スポーツ、あと観光、国際を足して全庁的な視点からということですので、高齢化社会を迎えて文京区が介護保険料の個人消費率日本最小を目指すことがスポーツを生かしてできればいいかなと思います。以上です。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。大石委員お願いします。

○大石委員：前回は申し上げたのですが、私は都立の心身障害児学校に長く勤めていたことで、特に知的障害と肢体不自由の教育をやってきたのです。その場合に卒業生を対象にしたスポーツクラブとか文化的なそういった何々教室というのは盛んにやってきたのですが、文京区には国立のそういう大塚もと養護学校、今は特別支援学校といいますが、それ以外の知的障害の都立学校はございません。たぶん他区の方でそれを受け入れているのだらうと思います。そういうことで文京区の在住の障害児のそういう特別支援学校を卒業した子どもたちがスポーツだとかいろいろな文化活動を盛んにやっていく場合に何か拠点が必要だろうと思うのですが、ちょっと私の周りには見当たらないのです。確かに子どもたちも孫も文京区のいろいろなPTA活動とか学校開放とか学校の施設開放で大変お世話になっていますし、私自身もいろいろとそういった恩恵を受けているのですが、一番心配なのはそういう特別支援学校の卒業生をどういうふうにかこのアカデミーの方で受け入れてくださっているのか。現状はちょっとつかめないものですから、もし今後そういったことがはっきりしてきたらぜひ位置付けをしていただきたいと思います。

もう1つはスポーツ関係の各施設のグラフの状況はよくわかりました。ただ非常にわかりにくいのは、平成18年度だけがぐっと落ちているのはどういうわけか。それから昨年度から今年度にかけて新型インフルエンザの影響がどこまで出ているか。施設利用で学校行事等がかなり中止になっていますので、その辺もお聞かせいただきたいということ。それからどの辺までこれは利用すると理想的なのか。ただ現状はこうですというだけでははっきりしないので、将来的に足りないというのはどこでどう足りないのか。どこまで増やせば十分満たされるのかという点も構想の中でぜひ言っていたいただきたい、というふうに思います。以上です。

○山崎会長：ありがとうございました。今ご質問がありますが、すぐお答えにならないで、ちょっと問題だとして受け止めておいてください。今、スポーツ分野がだいたいこれで終わりましたので、次に文化芸術分野のご意見を伺いたいと思います。笠井委員から発言願います。

○笠井委員：市民の枠で入らせていただきました笠井と申します。ちょっと1回目はお休みさせていただいたので初めてなのですが、私は3年前に文京区に引っ越してきました、それで去年、文京区民によるミュージカルに参加させていただいて、自分から応募してやる行事だったので市民の方のやる気が高く、ミュージカルの学校の先生に直接指導を受けていたのでとても有意義な時間を過ごせたのです。その参加者の方が例えば小学校以下の方だとか中学生だとか、または主婦をされている方だとかすごくいろいろな世代の方が集まっていて、そういう方々と一緒に踊りを踊ったりだとか歌を歌うことによって交流ができて、すごく私の中でも、例えば仕事のリフレッシュになったりだとか。あとは主婦の方の話の聞いたり中学生の生の意見を聞いたりだとかしてすごく自分の中で勉強になった

点が多かったなと思ったので、それでこういう機会をもっと設けられたらいいなと思って応募しました。

私の中で感じている課題というのが、やはりそういうイベントはたくさんあるのに若い世代にはあまり伝わっていないという印象があるのです。その1つは例えば広報活動にしても私は区民だよりでそのイベントを発見したのですけれどもメーリングリストで流すだとか、あとはホームページ上でもっと積極的に案内するだとか。あとはいろいろ看板とかもあると思うので、そこももうちょっと目立つような広報活動をしていったらいいのかなと思っています。ただ、文京区に引っ越してきて、例えばいろいろな坂に歴史のことが書いてあったりだとか、そういった点で歴史に触れられるというのはすごくいい点だと思っています、私はすごく文京区に引っ越してきていいなと思っています。ありがとうございます。

○山崎会長：柳澤委員、どうぞ。

○柳澤委員：公募委員の柳澤でございます。私は15年ぐらい前から文京区にいる、その前は生まれたのは港区の麻布で育ったのですが、文京区というのは非常に恵まれていると。東京の大中心の江戸城といえますか霞が関から隣接している区ですし、それから文化施設、図書館、博物館そのほかにも数多くあって、大名庭園もあると。港区あたりは新橋があったり芝浦があったり麻布があったりいろいろてんでんばらばらなんです。ところが文京区では本郷と小石川でまとまっていますから、非常にいろいろなことがやりやすい区であると思うのです。シビックホールという大ホールもど真ん中にありますし。だから文化芸術分野からいくとかなり恵まれているのですが、あんまり有名でないと。ほかの区から比べて目立って文京区はいいのだという感じが無いのです。この行事予定を見ましてもシビックホールでいろいろな行事をいっぱいやっているのですけれども、努力しているわりにはもう1つ目立っていないと。

どうしてかと思えますと、やっぱり先ほど観光ビジョンということであれば観光ビジョンが先行しているのです。芸術分野のビジョンというのがあるのかもしれませんが、私はあまり聞いたことない。やっぱり区民全体でこの文化分野をもっと推進していこうという母体といえますか。私はインタープリターということで今、一生懸命勉強してやっているのですが、何かそういう全体を盛り上げる推進母体というのはどうしても。先ほど笠井さんは言ったのは広報もみんなそうですけれども、そういうものがやはり慎重深いといえますか、文京区は、アグレッシブでないのですね。そここのところをどうしたらいいかと考えているわけです。例えばこの図表の統計を見てから来たのですけれども文京区の唯一の施設であるふるさと歴史館、入場者数が減っているのですね。だからその辺のところも含めて、何かやはり1つダイナミックな動きが必要じゃないかと。以上でございます。

○山崎会長：どうもありがとうございました。次に長尾委員。

○長尾委員：私は出身母体からの意見の反映ということもあるのですが、それよりはこうした文京アカデミーという提案のところに首を急に突っ込んだという感じでおりました、そういう意味では私は区民としてのいろいろな、このアカデミーで行うところの行事に幾つも今まで参加してまいりました。そういう意味では大変にユニークで有益なものがたくさんあるということを感じております。前歴は筑波大学で医学関係の教員をしておりました。その中では医学誌なんかも報じていたのですが、そんな関係から申しまして前に行われました日本医大の前身の創立史の講座がございましたが大変にああいうものはよかったと思っています。感心しましたのは明治の20年代に男女共学であって、そして入学資格は問わない。だから野口英世が出たり、あるいは女子医大を作った方ですね。吉岡さんですか、そういう人たちが出たという話もありまして、とてもいい講座がありました。

それから感覚の講座というのがあって、これは3年間かかったのですが、特に去年は触覚の話で私も非常に興味を持ったところです。これも非常にユニークな、感覚の話といえますといかにも人間の感覚器官はこれこれだって、脳まではこうやって行くなんていうようなそんな話じゃなくて、今はもっと感覚を大事にしなきゃいけないという、そういう講座がございました。それからそれと並んで表面科学、サーフェス・サイエンスといいたしうか。表面科学会と提携といって、いろいろなものの表面。人体の表面の問題は一番問題なのですけれども、死体の表面の問題とか、そういうことをやる学会があ

りまして、それとこのアカデミーとの連携で講座があった。これも大変にユニークな話でもって有益でございました。

それからもっと実際的なものとしましては昨年ありましたけれどもリコーダーを東邦音大でもって教えるという授業がありました。これもなかなか、リコーダーという楽器自体が素人向けですけれども、しかしやってみますと古楽器だから面白いものなのですが、そういうものの講座。それから音楽などでは「響きの森」のシリーズが毎年実はありますし、それから区内の大学のジャズコンサート。それから変わったものとしましては歌を歌う声楽の体験会というものが無料で受けられて、それを通じて声楽を習ったり、あるいはコーラスをやったりというようなところに入っていく道筋があるということの体験もしましたのでよかったですと考えております。

ただ問題は、そうしたもののPRがやっぱり少ないのではないかということ。PRというのは「こういうものがありますよ」ということだけではない。つまり区報などにはそういうのは出てはいるのです。ここでいつ何があるか。しかしどんなによかったかといったようなそのPRがないのです。ですからイベントがあることだけ知っても行くそのモチベーションがわからない。そういう意味ではもっとそういうモチベーションをわかせるような何か手立てを今後は考えるべきだし、そしてそういうことがまた生涯学習につながっていく。

それから公園の問題。公園というのはパークの問題。公園なんかでも今、ほかの区の例がありまして、ただ公園を作るという意味じゃなくて一つ一つの公園にそれぞれの特色を持たせる。例えば＝看板＝を置いておくとか。あるいは全体の野原にしてしまうといったような区もあるのです。それから観光の問題ではおそらく文京区も、これは私、知らないのですけれども、どこかほかの国との姉妹都市といったような問題はあるのだらうと思うのですけれども、そういったようなものも、もしあったとすれば活用していくということで、そんな意見を述べられたらいいと思って私はこの委員会に出席させていただいているわけでございます。以上。

○山崎会長：ありがとうございました。榑崎委員お願いします。

○榑崎委員：文京区書道連盟からまいりました榑崎と申します。書道を通しましての文京区へのいろいろな事業をさせていただいております。仕事としましては書道連盟展、それから文京区の区展がございまして、そのときに書道連盟を通しましていろいろとお手伝いをさせていただいている状況でございます。文京区には大勢の書家がいらっしゃると思いますけれども、もっともっとPRをして大勢の方に参加していただきたいとかねがね思っておりますけどなかなか力不足でそのような方たち、とても書に親しんでいらっしゃる方はいらっしゃることはよくわかっているのですけどなかなか参加していただけないという。それをどのようにかしてもっともっと広く参加していただきたいということが一番の念願です。

例えば私どもの活躍しているところでは日展とか読売展とか毎日展、あるいは産経展とか大きな展覧会はたくさんございますけれども、そういうところに参加している人たちよりもむしろ区民としての楽しみをしていただいている方たち、そこにスポットを当てていきたいと思っております。

それから子どもたちにもう少し書道に親しんでもらう場面を作る。そういうことが、この区を通していろいろなよその区でもやっておりますし、書道連盟とか大きなところでもかなりそういう事業をして広いところで活躍しておりますので、文京区には大勢の子どもたちはおりますから、ぜひそういうことで何かお力をいただけたらと思っております。以上でございます。

○山崎会長：ありがとうございました。次は観光分野に移りたいと思いますが、新保委員から発言下さい。

○新保委員：東京商工会議所の新保です。よろしくお願ひいたします。私は観光ビジョン策定協議会の委員も務めさせていただきまして、また現在、基本構想の策定協議会のメンバーにも入らせていただいております。観光関連の分科会に所属させていただいております。

今回はアカデミー構想のこの資料等を拝見しているかぎりでは先ほど黒木委員がおっしゃった意見

とまったく同感で、アカデミー推進計画で観光を議論する場合には非常に狭い、経済効果は抜いた生涯学習、またあくまでも区民に限定したみたいなかたちでの議論しかできないのかなと。ただ観光に欠かせないのはやはり経済的な側面というのは非常に重要ですし、確かに今、住民の方を区民ということだけではなくて昼間区民も区民であるという発想で基本構想もやっていますから、このアカデミー推進計画も住民の方、昼間区民の方を含めて計画をやるということであれば経済を除いた観光については議論できるのかなと。ただ、その経済を入れたときにはかなり無理があるのかなという気がしております。

それで3～4年前に、区では実はその観光を所管しているのは区民部経済課だったのです。3～4年前から今度はアカデミー推進部に移ってきたのですが、この所管自体に私はちょっと無理があるのではないのかなと。文化の側面、生涯学習の側面だけで観光をやれといえどももちろんその議論はできるのでしょうけれども、観光の視点で欠かせないのはやはりその経済活性化、消費活性化というところですから、これを抜きに観光を議論するというのが果たして適切なかどうかという疑問もございます。以上です。

○山崎会長：ありがとうございます。上田委員。

○上田委員：上田と申します。文京区商店街連合会から参加しました。これで2回目ですね。先ほど隣の商工会議所の新保事務局長さんからお話しあったとおり、商店会という観点から見て観光という切り口で考えた場合かなり難しい部分があるなと思っております。しかし、先ほども新保さんはおっしゃったとおり、観光の中には地域の活性化というものはどうしても必要なわけです。人が集まってくるような場所、それから人がそこで滞留できるような環境、それから来てもいいなというようなその対象。そういうものをわれわれ商店会の方でいろいろと考えていたわけです。

例えば私は地元の町会の町会長もやっております、今の座長さんの跡見学園の前に昔、明治のころにありました柳町のすぐ向かい側で住んでおります。そういうところの中で今、文京区は五大花まつりだとか、そんなようなかたちで人を集めようということを考えております。その中で五大花まつりといいますが、かなり古い建物やなんかを対象にして動かしているわけです。例えば今、湯島の菊まつりでしたら天神様、つつじまつりでしたら根津神社とか。根津神社ですと結構いろいろな話がございまして、落語の世界でも結構出てきます。それから白山神社だとか。そういうところを使いながら何か観光の中のアカデミーという部分、こういうものを何か考えていきたいなと思っております。

まず文京区とコラボしている今、アカデミーという観点からいきますと、例えば樋口一葉さんの件だとか、それから佐藤八郎さんだとか。森鷗外さんはほかの地域とあまりバッティングしていませんけど（笑）。樋口一葉さんなんか特に最近、塩山の方、山梨県の塩山ですね。あちらの方が結構にぎやかなのです。文京区の方は結構取られているかたち。特に台東区とか竜泉の方が人気はありましたよね。今、本郷の何と言ったっけ、あそこは？ お寺さんありますね。今、一葉さんの命日のときに何かやっている場所がありますよね。あそこでも塩山の方から観光協会の人が来て一生懸命盛り上げているわけです。文京区の場合はちょっと後ろの方に回っているようなかたちですので、この辺を何とか前に出して商店会という中でアカデミーという部分をどういうふうに見ていくか、進めていくかということは今度は分科会の方でちょっと考えてみたいと思っております。

○山崎会長：はい、ありがとうございます。山本委員。

○山本委員：山本でございます。今、皆様のいろいろなご意見を伺ってしましてお大変私自身が勉強不足であることを自覚させていただきまして、これからまた頑張っていきたいと思うのです。ただ、私はこの「区内まるごとキャンパス」、この言葉が大変好きでして、ぜひこの構想は、時間がかかるとは思うのですが実現させていけたらなど、未来の子どもたちのためにもそんなふうに思っております。今、現在、英語観光ボランティアの講座を受けさせていただいているのですが、生涯学習司やサポーターの会ですとかインタープリターの会の皆様はネットワークを今、徐々に広めつつ、皆様、固めつつあるのですが、この英語観光ボランティアの方でもネットワークをぜひ、3期まであるのですが、まだまだ出来上がっていない状態ですので、この辺からしっかりと土台を作り上げてからかなと。まだ、

すみません、大変勉強不足なのですけれどもそんなふうに思っております。

あと、10年、20年先のことも考えますとやはり少子化はありますが、子どもたちにもぜひこういったものがあるのだぞということは、すぐに参加させなくてももちろんあれなのですけれども、いつも身近にあることは少しずつでも気付かせていたらなどは思っておりますが、これからもまた勉強させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

○山崎会長：ありがとうございます。次に市川委員。

○市川委員：区民公募の市川でございます。観光のグループに入っております、私の前にいらっしゃる新保さんと上田さんのお話を聞きまして、僕は観光地に行く方の立場ではいろいろ楽しんできた方なのですが、実際に新保さんから上田様ですかね。失礼しました、上田様。そういった誘致を計画するということにはあまり慣れておりませんでしたので話を聞いて、観光のグループに入って若干喜んではいたのですが、結構大変なグループなのだということを実感しております。ただ、私は観光地に行くという楽しみを持って行く側ですので楽しみを持って行けるようなことを考えていけばいいのかなと考えております。ただ、それが何であるのかは座長の野口先生からもいろいろお聞きしてこれから検討していけばいいのかなと思っております。

それが観光についてなんですが、1つ、今週の始めですか、先週末ですか。文京区の方からこの協議会に送られた資料でわからないのがあるので2～3質問させていただきたいのでよろしいでしょうか。文京区の特長ということではいろいろ先ほど大石様の方からもある施設の利用がどうなっているという現状があったのですが、その評価がないので、当然各施設の利用とか利用時期の問題とかいろいろあるかと思うのです。ある施設を作ったからにはその施設を運営する管理レベルがあるはずなので、その管理レベルをよければ教えていただきたいと思っております。その管理レベルが壊れるとどうなるのか影響等も考えられていると思うので、そういったのがあれば非常に読みやすかったなと思っております。

それから2点目ですが、そのいただいた資料で、送られてきた資料の26ページから今までの基本構想にのっとった施策でやられていたというのがあったのですが、観光については観光ビジョンができておりまして、それにのっとった実施計画書はあったのかなのか教えていただきたいと思っております。もしあるならば、その評価も当然そろそろやられているのではないかと思いますので、特に観光についてばらばら見ていったのですが1個もなかったものですから、ぜひお願いしたいなど。過去の実績とか何をやろうとしたかというそれを知りたいと思っております。

あとは全般的なことですが文京区役所なのです。よく私はふらふら歩きますのでいろいろな区に行くのですが、区役所の対応は、文京区は大きすぎてあまりよくないと受けています。特に入り口を入れてすぐですね。ほかの区、例えば豊島区とか荒川区、江戸川区、こんなきれいな建物じゃないのですがとても親切に対応していただいているという印象は持っております。これは文化の違いなのか、それともそもそも文京区というのはそうなのかちょっとわかりませんが、「だから何だ」と言われると私も困るのですけれども、ちょっとそのような印象を、感想を述べさせていただきました。ありがとうございました。

○山崎会長：一応そういう問題が出ているということだけ今ちょっと押さえておいてください。質問もありますけれども今はとにかく一応は後でということで、奥田委員お願いします。

○奥田委員：東京観光財団の奥田でございます。新聞だとかテレビに出てくる観光というと1,000万だとか1,500万だとか、もっと前倒しで2,500万という数字ばかりが出てまいります。私は昨年、文京区の観光ビジョンの検討に加えていただいた経験も踏まえて、観光に対する地域の対応力というのがやっぱり観光事業のすべての根源なのだろうと思っております。それでまた今回こういうかたちでもって文京区のアカデミー、どの程度観光を盛るかというのはちょっとよくわからないのですけれども、これに参画をさせていただいて大変いい機会を与えていただいたと感謝しております。一生懸命勉強させていただきます。

○山崎会長：ありがとうございました。それでは白井委員。

○白井委員：観光協会の白井でございます。昨年、東京都が観光に力を入れるということを受けまして文京区の観光協会としましてシビックセンターの17階に事務所がありましたのを区長の英断によりまして1階に事務所を構えさせていただきました。これは何のためかといいますと、文京区にはたくさんの方の史跡ですとか本当に財産をたくさん持っているにもかかわらず区民の方がまったく知らないという方がほとんどでして、これをどのように告知、皆様に広く知っていただくかということをやらないといけないということと。あと最近、文京区の中も歩いている方たちがすごく多いです。いろいろな史跡をルートにして歩かれています中で他区の方たち、あるいは当区の方たちがやはり文京区の中でどこをどう歩いたらいいのだろうかという文京区の観光案内のお問い合わせが非常に1階に移りましてから多くなりました。そういうことで取りあえずその観光、文京区の史跡ですとかそういうものをとにかく知っていただくためには何をしたらいいのかということは今、いろいろ模索して、いろいろな資料を作って皆様に配布をさせていただいております。その観光ビジョンというのもございますので、これからその観光ビジョンをまたもとにしまして現実に、これは今回、商工会議所の方や商店連合会の方たちと一緒にこの文京区の観光を活性化するために皆様で力を合わせてどういうふうにしたらいいのかということをやりたいなと思っております。

○山崎会長：どうもありがとうございました。次に国際交流というかたちになろうかと思いますが、本松委員からお願いします。

○本松委員：中学校PTA連合会の本松です。私、国際分科会ということで、私は中学校の方ということで資料の方にも年少人口は老年人口と同じぐらいということで、これから生涯学習ということで先ほど来お話に出ていますように、基本的には子どもたちがどうやって文京区を見、文京区の中で育てなければというところの視点でわれわれ、保護者の方ですけれどもそういう視点でつながり等について国際の中でお話をできればと思っています。学校の方では国際理解教室等々で文京区の8割を占めるアジアの方とかとは接点はしているのですが、それはその時間だけで終わっているのが、それが家に帰ったり、地域の中で広がっていきえるような、そういう視点でこの国際交流という学校とのかかわり、子どもたちが見て感じているような話については私どもの方では保護者からいろいろ聞いておりますので、そういったところを膨らませながら、この文京アカデミーといいますか、そういったところにつなげていければなと思っております。以上です。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。

○本松委員：1点、アンケートで20歳以上ということで子どもたちの意見は反映されないのだなと思って、これは保護者から聞けということだと思っておりますけど、ちょっと残念だなと。蛇足ですけど、すみません。

○山崎会長：次に伊藤委員。

○伊藤委員：私は文京区の男女平等センターを指定管理者として管理運営をしている女性団体連絡会からまいりました。ここでは20年からの歴史がありまして、男女共同参画社会を作ろうということで、それが主目的でいろいろなセミナーや講座を続けてきたのです。その中でたまたま今度は国際分科会ということで思い返しますと「世界の女性たちは今」というテーマでずっと今まで大学の先生や、また現地の方たちと、私どもの委員のネットワークでそれぞれの方をお招きしてセミナーを行ってまいりました。それからもう1つは世界の楽器シリーズというものずっと続けておりまして、いろいろな国のメンバーが現地の方が演奏してくださった。これはセンターまつりというのを毎年9月に行っていますけど、ここに必ずそういう世界の楽器を演奏していただくということをやってまいりました。ですからセミナーなんかの場合は特に大使館、直接アタックなのですね。大使館に直接電話をして「世界の女性たちは

今」というテーマでお願いしたいということでお招きしてきたということがあります。それから世界の楽器シリーズの方では、去年は海外青年協力隊で行っていた青年たちが向こうで学んできたガムランの演奏をしてくれたのですが、そういったかたちで招いて区民に啓発をする、お知らせするという、そういう活動はしてきているのです。

ただ、この文京のアカデミーの構想からいくと常に単発な事業なわけです。そして、ただ知識を受け入れるというかたち。そして区民の方にいろいろな情報を与えるというだけの活動をしてきたなど今、思ったわけです。これからはそれが文京区の中に国際交流としてある国と本当の文化の交流ができるかどうか。それはやっぱり課題だなと今、聞いていて思いました。幾つかの国との逆に交流が定着をしていく。そしてもっともっと文京区が海外に強い区になれるような活動が今度この新しいアカデミーの中でできたらいいなと思いました。以上です。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。次は國分委員。

○國分委員：区民公募委員の國分でございます。私は文京区に長く住んでおりますけれどもほとんど海外の仕事をしておりまして、海外で暮らす期間は長かったわけですが、海外のお知り合いの方が日本をどのように見ているのかということを感じたり経験したりということが非常に多かったと思います。自分のそういう海外のキャリアを、一通り区切りをつけまして日本に戻ってまいりまして、やはり国際ビジネスとか国際交流の仕事はもうそろそろ打ち切ろうと。

これは話をしますと長くなりますのでまた違った機会に申し上げますけれども、国際交流とかそういうことが非常に難しいということを経験の中で実感しまして、日本に戻ってまいりまして文京区の講座でありますインタープリター講座というものをすぐ受講しました。この理由は日本の歴史と文化というものを伝達していくのだ、そういう人材を育てるのだということで、やはり自分が海外に長く暮らしていたということから来る、欠けている点といいますか。やはり日本の歴史と文化をまず勉強しなければ国際交流の「こ」の字も語れないというのが海外にいましたときの実感ですので、そういうことでインタープリターの講座を受けまして、これで3年今、受講しております。

インタープリターというのはいわば日本の歴史文化をお伝えすると。日本というのは文京区の歴史と文化をお伝えするというかたちの人材を育成するということですので、自分の今までのそういう歩みを踏まえて今、勉強しておりますその講座の内容を活用することで進んでいきたい。ただ、今、申し上げましたように国際交流というのは非常に難しい課題なものですから果たしてどの程度この提案ができるのかなということは今、率直に感じている点です。

そういうことで今日の会議の前に文京区の周りの新宿区とか豊島区とか、そういうところのホームページを一通り拝見しまして、国際交流というところに絞って他区がどのようにやっているのかなと実は見ておりますと、残念ながら形式的な基本ビジョンとかそういうものに終始している区がほとんどでして、果たしてこれで国際交流というものが実際に地方自治体でできるのかなというのが率直に感じた点でして、これはもう分科会でまたそういう内容をお話ししなきゃいけないことだと思うのです。

端的に言いますと形式的な計画とかビジョンは具体的にはやはり行政で進めるのだということ。国際交流というのは姉妹都市協定を交じ合わせたり、ホームステイのそういう協定を交じ合わせたりということが各区のところに書かれています。やはりホームステイの提携を交じ合わせましても、海外へ行きまして文京区なら文京区のお子さんが文京区の歴史と文化を相手先のお子さんに伝えられるのかどうかということが非常に重要なポイントではあるわけです。それがどうしても学芸員とか、そういう行政の立場で進めていくというふうにとどまっているような印象を受けました。そういう意味では文京区の方ではインタープリターを含めて区民参加の生涯学習ということを今まで進めていますので、そういうところがこの国際交流の分科会でこれからご提案をする1つの切り口かなと、このように思っております。以上です。

○山崎会長：ありがとうございました。熊田委員。

○熊田委員：公募委員の熊田と申します。私は生涯学習を推進する市に勤務しておりました。現在は退

職しております。その経験からすると、生涯学習と町づくり、生涯学習推進が町づくりに結び付くという、その考えはすごく自分が好きでいますので、結構、今、教育の予算も削られてきているし、生涯学習に行政がかかわるといのはだんだん減ってきているように思うのですけれども、そういう中で文京区はそういう特色を出していこうというところはすごく個人的にそういう区に住んでいることをうれしく思っています。国際交流の分科会に所属しているのですけれども、国際交流に限ったことではないと思うのですが生涯学習に参加する人はやはり限られてしまうというのが1つ問題点としてあると思います。実際に参加した方が地域に戻って、また地域で広めていくような仕組み作りが必要ではないかと考えています。以上です。

○山崎会長：どうもありがとうございました。森岡委員。

○森岡委員：キーウィクラブの森岡でございます。私はキーウィクラブとして今まで文京区のイベント、皆様のお手元にあります国際交流フェスタ、その他のイベントに何回か参加させていただいております。これからの文京区の国際化といいますか国際交流といいますか、その辺につきましてもは区の姉妹都市の今後の関係。それから今、区にはだいたい7,000人ぐらいの外国の方がおられるようですが、その方たちとの関係。ということは国際交流、内に向かっての交流、それから外に向かっての交流というものが大きく考えられると思うんです。そういう問題を考えながら、先ほどお話もありましたように区としてその国際化をどういうふうにお考えになっているかということをもう少しお聞かせいただいた中で分科会の中で具体的な問題についてはお話をさせていただきたいと思っております。国際交流という点を考えますと、ここにあります分科会。例えばスポーツの交流もありますでしょうし、文化の交流もありますでしょうし、いろいろな分科会とのかかわりが非常に出てくるのではないかと思いますので、そういうかたちの中で進められたらよろしいのではないかと思っております。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。最後になりましたけど佃委員。

○佃委員：私はアジアからの留学生のお世話をしている佃と申します。国際分科会の方では、今、思っているのは文京区がまるごとキャンパスという、この発想は非常にうれしい発想で、たぶん世界の中でもフランスと幾つかしかない発想ですので、これは1ついいと。歴史的に見るとどうなのかなというところで神田神保町がその主役を以前担っていて出版物、いろいろなことで若者が産業を作りだしていった。それが大きく広がって文京区という広い地域にまたがっていったところがこの明治以来ありますので、そういった意味で文京区がこの教育という立場から学校というものが、たぶん私は実態が本当はわからないんですが、どれくらい日本の中で一番多いとか、あるいは面積あたり多いとか1人当たり多いとか。あるいはほかの区から流入が多いとか。つまり世界一の教育地域なのかどうかとか、そういったところはまだよく私も調べたことはございませんので、こういったものをとにかく自分の第一シンボルとして強烈にアピールできることが1つ重要です。その具体的なのはもちろん東大さんとかそういうのはありますが、国際化という点を含めましてこれから、特に文京区にある大学の方には協力がなければもちろんできないことですので、そういったところは非常に興味があります。

いわゆる外国人社会というのは文京区の場合には産業が育っておりませんので、そういったいわゆる外国人ということはちょっと無理なのだと思います。したがってそういう意味で国際化といったときに外国からの留学生、今、政府が30万人計画ということでイギリスにはとても及びませんが、あるいはフランスにも及びませんが、とにかく30万人やっちゃおうということでやっているわけです。そのシンボリック的位置が地域としては文京区も持っているわけです。そういう意味でそういったところで外国から見てもすごい国際教育村だと言えるような町、その中に本屋もあれば何かもあればといういわゆるコンセプト作りの町が育つのかどうかと。秋葉原だったら世界一のところで、あるいは巣鴨だったら高齢者が遊びに行って一番生き生きする地藏通りを持っているとか。それは世界にありませんから、そういった意味での特徴が果たしてアピールできるかというのはやっぱり観光にもやがてつながるところで、そういういわゆるキャンパスが本当に観光化できるためには持っている資源を、施設および全部を活用しなければとてもできるものではありません。観光というのはそこに自信があって特徴があ

るものをアピールすることができるということですので、そういった意味での何か視点の絡みがあったらいいかなと大上段に思っております。

そのためにはやはり町をつくるという受け入れをする、これから高齢化する社会、少子化と高齢化が同時に入ってきているという基本の背景がこのコンセプトに入っておりますが、そうしますとそこにいわゆる第三者のカンフル的な国際化というものがどういう影響を人生生活設計の中で起こってくるのかというところに、その子どもたちが市外からもたくさん入ってきているということであれば、そこで国際理解教育というものが多く取り組まれれば新しい社会の子どもたちが成長して出てきます。それから高齢者の場合には活性化ということでやはり刺激というものは違うものを少し少し触れることで心の活性化が生まれて、これだけ年を取ったけど新しいものもまたあるのだよということ。それからまったく知らない人にも教える。そういうことでいわゆるソフトウェアの生き生きしたものは作ると。それをどうやってハード面で作り上げていくかというのはまたもう1つあると思うのですが、そういう視点でもしやれたら、ちょっとでもと思っております。

私どもが実際にやっているのは小学校の理解教育であったり日本語のボランティアの方々施設を提供したり地域の人と、おじいちゃん、おばあちゃんの町内会の人たちと一緒に食事を作って食べたりとか。それから大きな秋まつりというところの地域の方にたくさん遊びに来ていただいて踊りを見せたりとか、そういうものを行っている、いわゆる町内会レベルでしか動いてはおりませんが、何らかのかたちで文京区がそういう世界一というようなものを目指していただけるとありがたいと思っております。以上です。

○山崎会長：はい、どうもありがとうございました。1人2分で50分の予定が、委員の皆様の思いが1時間になりました。本来はここから活発な議論を展開するというのが一番望ましいわけですがすでに時間がかかり過ぎております。

それで実は座長になる先生方にこれから進めるにあたって、今日の意見を踏まえた上で少し議論の方向性みたいなおところをお1人ずつお話しただけるとありがたいと思います。まず野口先生のところからいきますか。

○野口委員：観光分科会の座長の野口でございます。観光分科会の皆様のご意見、それからほかの分科会にご所属の方でも観光に関するご発言をいただきましてありがとうございました。私は当初、前回も申し上げて不安を抱いたように、やはりどのように観光というのを位置付けるのか。定義すると言うとちょっとオーバーですけども、この組織、この会議の中で、もしくは分科会の中でどう扱うかということについてはやっぱりきちんと考えなきゃいけないのかな、限定しなきゃいけないのかなという意識は持っております。観光ビジョンのこういう、これは概要版ですけど拝見しますと、観光振興に取り組む意義として社会的効果と経済的効果がありますので、もしかしたらここではやはり皆様ご指摘のとおり経済的効果というのはちょっと置いておいて社会的な効果、社会的な効果の中には歴史・文化的な部分というのも入っていますので、そういった点になるのかなと思っております。

ただ、先ほど外から来た人をガイドで案内するということを含めるのか含めないのかというご議論もあったと思うのですが、観光というのは自ら観光する、つまり国の光を見に行くというものもあるのですが、観光の観という字は「観（しめ）す」とも読むのです。ですから自分たちの優れた文物を外から来た人にお示しする、見せるということもあると思うのです。ですから自分たちの生活文化の客観視というんですか。そういったことも1つはあると思います。

ですから、例えばもしここがこの会議の中で重要なテーマが「学び」ということだとすれば、それはやっぱり、よくこういう言い方をするのですがよそ者を通じた学びというのですか。外から人が来ることによって、よそ者という言い方はすごく排他的な言い方ですけど、しかしよそ者という刺激を受けることによって自らが自分たちの町ってどういう町なのだろうとか、ほかの町と比べてどこが優れているんだろうと。そういうことを見直すきっかけになるという学びの機会なのかなと感じておまして、そういった意味合いでその観光をとらえるとすればまさに生涯学習であり、結果的にはそれが区民の皆様にとっての、先ほどアカデミックな部分というお話はありましたけども、そういったことも同時に達成できるのかなと思っておまして、担当の課長さんなんかともご相談しながらちょっとその辺の balan

スを取って進めてまいりたいと思っております、今日は一番私が悩んでいるのではないかなと自負しております。ありがとうございます。

○山崎会長：どうもありがとうございました。青木先生、どうぞ。

○青木委員：順天堂の青木と申します。前回は欠席させていただきました。申し訳ございません。医学部はご近所にあるのですが、私の所属しているスポーツ健康科学部というのは千葉県の印旛村という村にございまして、正直言いましてここの文京区にどれほどの体育施設があるのかもわかりませんし、ある意味ではよそ者なのかもしれません。皆様委員の方々の意見を聞いて「なるほどな」と思う部分もたくさんございましたし、これからいろいろな意見を出していただけるのかなという期待もしております。

さて、スポーツ振興といえますと少し専門的な話になってしまうのですが、スポーツ振興基本計画というのが文部科学省の方で出されています。それに基づいた流れの中でいくと、キーワードになってくるのがいわゆる総合型の地域スポーツクラブというところは非常にどこの市町村も活発にやられていると。それとともにそこで扱っていく使用者を育成していくというところ。つまりハード面としてスポーツ施設をどうとらえていくのか。それからもう1つはソフト面として指導者を育成するのをどうとらえていくのかということがスポーツ振興基本計画の中では大きく述べられていることだと思います。

それに加えてスポーツ振興基本計画の中では競技力向上ということも1つの文字として出されています。具体的にはこれはJOCの関係のこともあるのですけれども競技力というものをどうとらえるかというような側面もございまして。

文京区のこの中ではこちら辺をどう扱っていくのかというのは非常に私としてはまだ見えないかなという部分です。場、つまり今あるスポーツ施設をいかに充実していくのかという方向でいくのか。もしくは先ほど来言うように指導者の育成、ソフト面を充実していくのかということは、これは行政の方の方々とも相談をしていきながら方向性というものは聞かなくちゃいけないかと思っております。

それとあと1つは子どもから高齢者ということは非常に今、重要な課題になっておりますので、特に委員の皆様方にはハード面のことをどうしているのか、ソフト面をどうしているのか。それからあとは多分野との連携もしなくちゃいけないということと、見てみますと非常に事業もスポーツというカテゴリーの中にずいぶんいろいろ入っているので、こちら辺は他のところと共生していかなければならないものなのかというところで、先ほど競争化というお話がありましたけれども、これは共同のようなかたちで連携していくというかたちでやっていかなきゃいけないのかなと思います。いずれにしてもスポーツという子どもから高齢者という生涯学習というのは1つのキーワードになってきますので、こちら辺との兼ね合いも含めてスポーツの側面から議論をしていければと思います。以上です。

○山崎会長：はい、どうもありがとうございました。水越先生、お願いします。

○水越副会長：東京大学の水越です。1つは、僕は文化芸術というところなので文化芸術のことについてなんですけれども、今日は4人の方にお話をいただきましたが僕はまずはその委員の皆様とじっくり話をしてみたい。今日も非常にいいお話をいただきましたのでもっといろいろなことがあるのではないかと思います。これが公式的にどういう会がどういうスパンであるかというのはちょっとわからないのですが、ちょっといろいろいわゆるブレインストーミングというのですか。そういうかたちであれこれいろいろなご意見をいただいたとき、というようなことをやりながら、どっちかというボトムアップでやっていきたいと思っております。僕は行政的なものにあまり慣れていないので抽象的なところから話をしていくと何だかよくわからないということがあるので、やっぱり具体的なことからマップを描いていきたいと思っておりますので委員の皆様、どうかよろしくお願いします。

文京区の場合には先ほどどなたかがおっしゃいましたけど比較的、史跡があったり大学があったりいろいろあって、そんなに有名じゃないかもしれないけどいろいろあるということ。言うところいろいろやりようはあるはずだと思います。今までやられてきていることもかなり面白いことがあると思うので、何か、相撲で言うと今から15戦全勝するというよりも8勝7敗のものを10勝5敗とか9勝6敗にするみ

たいな感じで、ちょっとよくしていくというぐらいの考えでやっていくのが一番いいのではないかと思います。

あと、僕らの部会のことをちょっと置いて全体で言うと、さっきちょっと言いましたけども乱暴で申し訳ないのですが、やっぱり言葉がぼんやりしているとか一般的すぎて僕はよくわからないのです。少なくとも僕の観点からすると、例えば生きる目的を学び、学ぶ術（すべ）を学ぶと言われてもそうかなと思うのだけど、どういうことを言っていることになりそうな気がして、これを読んで一番僕はぼんと来るのは区域全体が生涯学習のキャンパスだという、何人かの方がおっしゃられましたけどそのキャッチフレーズは非常にわかりやすい、それで意味もあるということだと思っております。

かつて長野県は「ピンピンコロリ」というのをやりまして、ぴんぴんしているおじいちゃんたちやおばあちゃんたちが翌日ころっとおうちで逝くと、これが一番いいやり方なのだとか健康増進の言い方をしたことがあったのですが、これはもうみんなが使える言葉で、しかも非常に含蓄が深いわけです。やっぱりちょっと言葉を魅力的に研ぎ澄ましていかないとやっぱり埋もれちゃうのではないかと思います。

それからあともう1つ大学にいますので思うんですけども、アカデミーとかというのはこの前、毛利さんなんかがおっしゃいましたけど広い意味合いで使っていますよね。あんまり今の大学とか、キャンパスとかアカデミーってすごく大学で考えると、こちら辺にいらっしゃる人は同意してくださると思いますが、大学って別に天国じゃないわけで、何か非常に権威主義的になったり縦割りになっちゃったりするわけじゃないですか。だから学びの場所が広がるという意味ぐらいだととらえておくというのは基本的に大事なのかなと思っております。

それから文化芸術のところでも特にそのPRのことがいろいろお話は出て、お子さんたちにもっと書いてもらおうとか、あんないいミュージカルがあるのだからというようなことがありましたけど、やっぱりそれはどういうメディアを活用するかということにつながってくるかなと。区報なんかも非常に重要ですし、例えばケーブルテレビなんか大事だと思いますけど、こういう建物の中に何かいろいろやってみるとか空間をメディアとして利用するみたいなこともあるかと思ひまして、そこら辺についてはちょっと横断的に分科会を超えて考えていけるところかなと思ひました。以上です。

○山崎会長：はい、どうもありがとうございました。それぞれ、私自身は必ずしも要するに行政が考えているようにうまくまとめようと思ひていません。つまり私は自分の経歴が大学を出て夜学の教師を8年やって、それこそ青森の集団就職で来た生徒たちを扱って、8年務めて大学へ出たときに一番先に社会教育に携わったのは三鷹なのです。私が文学の講座で、それから室俊司（立教大学教授）という社会教育学の先生、それから歴史の川村善二郎（東京経済大学講師）先生と、児童文学の渋谷清視（のち鳥越信）先生、4人で同時に毎週授業展開をするわけです。年2回の全体会を行っていました。そういう中で市民が作る市民のための市民の大学というのはどうあるべきかということ、そこで徹底的に鍛えられました。私は、そういう経験を持っているのです。

この協議会に区民代表が入っているということは、そういう意味で大変いいことなのです。私は、全体の会長ですから責任を持ったかぎりにはちゃんとまとめますけれども、必ずしも、区が考えていることそのままではなく、委員の皆様が本音で意見をぶつけて、こういうふうにした方がよいのではないかなという施策案が出来ればよいと思ひています。要は生涯学習を通していい区民になることだと思ひます。いい区民になるということは、この文京区の行政を批判的な目で見られる人間をつくることだと、私はそう思ひてここに座っています。そういう意味で、皆様方の思いが各分科会の中で生きてくればよいなと思ひています。

そのような講座をやっていたときに、慶応大学大学院でドクターコースから講座に参加していたのが、現在の三鷹市の清原市長です。そういうことで言葉1つを考えてみても、まるごとキャンパスはいいのですよ。もう1つ、そこで徹底的に教わったことは、税金を使ってやるということがどういうことなのかということ、これを徹底的に考えろということです。私はもともと文学専攻の人間ですからあまりそんなことを考えたことはなかった。しかし、これは生涯学習の中で考えていかななくてはならない1つの大きな視点だろうということです。ですから、とにかく各分科会で皆様方が意見を出して、座長の先生の下で新しい文京区のテーマができればよいなと思ひております。そんなことでだいぶ時間が超過しましたがけど

も、今日は全員にとにかく話をさせていただいたので、言い残した思いはそんなにないだろうと思っています。後のことについてちょっと事務局の方からお願いします。

○毛利課長：はい。次回の日程等をちょっとご連絡したいと思いますので、お手元の資料の 56 ページをご参照ください。こちらに協議会のスケジュールが出ておりまして、次回、第 3 回は 2 月 18 日木曜日、午後 6 時半から、会場は本日と同じこの区議会の第 1 委員会室で行います。それ以降の第 4 回が 3 月 23 日、やっぱり 6 時半で同じ会場になります。次回、その次の会の日程等をお押さえいただきたいと思っています。

それから、今回も席上にご意見シートがございますけど、本日の協議会でまだ感想や意見など、気付いたことや時間の関係で発言できなかったことがございましたら合わせてこちらにご記入ください。よろしくをお願いします。今回は 2 月 2 日までに事務局の方にご送付いただければありがたいと。

それからお手元の 56 ページの先ほどのスケジュールの中の右側に文京区基本構想という、このスケジュールはあくまで参考程度ということでお示ししていますのでご了解ください。以上です。

○山崎会長：はい、どうもありがとうございました。これで閉会いたします。長時間本当にありがとうございました。

以上